

親愛なるジョン・ケリー 殿、

ベテランズフォーピースをはじめとする平和活動と気候変動に尽力する者を代表し、貴殿が気候担当の大統領特使に任命されたことをお祝い申し上げます。また、パリ協定復帰に感謝し、バイデン政権のクリーンエネルギー革命を主導する貴殿の努力に拍手を送ります。

ここから私たちは、気候に関する話題の中心に、軍国主義を据えて考えてみたいと思います。

バイデン／ハリス政権が、気候変動危機の深刻さに取り組むためにこの新しいポジションを設け、貴殿をそこに据えたことを嬉しく思います。かつて貴殿が反戦帰還兵として、壊滅的なベトナム戦争批判を明確にじっくりと議会で語って下さった時から50年が経とうとしています。貴殿のあの議会での発言は、すでに反戦を唱えていた退役/現役軍人を含む私たちにとって、権力に対して真実を代弁して下さいだったものでした。以来貴殿は数々の重要なポジションを経験して来られました。あの1971年4月に議会で発表なされた戦争と軍国主義に対する勇気と明確さを、現職でも発揮していただきたいと思います。

あの時貴殿は「いつまでこんな過ちのために死ねと言えますか？」という質問を投げかけました。

今、私たちは、「終わりなき戦争と軍国主義が引き起こす気候大変動のために死ねと、何百万人もの人々にどの面下げて言えますか？」と問うているのです。

気候変動による大惨事防止のために、私たちは以下のようなお願いを提示します：

- 1) 温室効果ガス（GHG）排出量に関するすべての報告書とデータに、軍の排出量も含めてください。1997年の京都議定書の交渉において、米国は各国の温室効果ガスの総量から軍の排出量を除外するよう要求しておきながら、議定書に署名すらしなかったというのは恥ずべきことです。
- 2) 貴殿の公的立場を使って、米国の軍国主義と国防総省が気候危機を悪化させている事実を一貫して指摘していただきたいのです。そして、世界中に派遣されている軍の活動範囲を大幅に縮小し、隊を帰還させ、無人機による戦争をやめ、何百もの海外基地を閉鎖し、終わりなき戦争をやめ、核の近代化を拒否し、宇宙軍の予算を削減することで、財政的、物質的、人的資源の浪費をやめ、ペンタゴンの二酸化炭素排出量を最小限にするよう働きかけてください。
- 3) 米露と米中の二国間協定を推進し、金融機関が将来の化石燃料投資に資金を提供することを禁止し、南シナ海での軍事演習を中止し、北極圏を採掘探査や兵器システムから守り、「気候保護者」代表団を派遣して人的交流と知識交換を促進し、友情を築き、生物多様性と再生可能エネルギーを促進するための共同プロジェクトを実施することをお願いします。
- 4) 貴殿の公的立場を使って米国が「緑の気候基金」に公正な負担をするように提唱してください。
- 5) 化石燃料から再生可能エネルギーへの移行により失業した、あるいは将来そうなる労働者が十分に生産活動に従事できるように、公正な移行を強力に支持してください。
- 6) 現在の気候災害を引き起こした勢力に打ち勝つためには、貴殿を含む多くの選出議員や任命された役員の努力とともに、気候正義を求めて運動する人々の努力が不可欠であることをご理解ください。そのために、私たちのグループと同盟関係を持って貴殿にこの問題に取り組んでいただきたいのです。それと同様に、これらの姉妹グループにも注意喚起し、気候変動運動でこれまでほとんど取り上げられてこなかった戦争と軍国主義との関係にも着目するように働きかけます。

一方でこのような事実があります：

a) ペンタゴンは世界一化石燃料を使用しており、したがって温室効果ガス（GHG）の最大排出機関です。

b) その上に、兵器や装備の製造、輸送、使用、および他国のインフラや自然環境への激しい爆撃により、環境にも重大な悪影響を与えています。

c) 終わりのなき戦争、核兵器、約800の海外米軍基地に費やされる数兆ドルの資金は、いずれも気候変動から私たちを守るものではありません。そんなことよりも人々が必要とする分野や地球を癒すことに向けられるべきものです。

d) 軍産複合体と化石燃料企業との深い共犯関係。米国企業が資源や労働の成果を奪って地球全体を略奪することを米軍は推進しています。

ところが、2月18日の米国パリ協定復帰歓迎スピーチでは、軍の気候危機へ与える影響について貴殿は一切言及しませんでした。このことは注目に値します。

同様に、気候危機に関する下院特別委員会の報告書「気候危機の解決」
<https://climatecrisis.house.gov/report>では、多くの分野で変化が必要であると示唆していますが、国家安全保障のくだりでは、気候変動が米軍基地の軍隊にどう影響するかが書かれているだけで、軍隊が気候危機にどのような影響を与えるかについては何も書かれていません。

私たちには、明白な問題の根元を無視したり、否定的な態度をとり続ける余裕はありません。

鉄砲水、山火事、氷点下の気温などの異常気象を見るにつけ、温室効果ガスの排出量削減の緊急性を強く感じます。持続可能な世界で炭素を排出しない未来を実現するためには、世界の安全保障を気候の安全保障として再定義しなければなりません。戦争や軍備は私たちの安全性を低下させるだけのです。このままでは、ますます軍国主義的で悲惨な世界に直面し、先進国は南半球からの気候変動難民を締め出し、化石燃料と軍国主義への依存は先住民に不平等な犠牲を強います。

私たちの存続に関わるこの脅威に終止符を打つためには、社会の組織原理を、貪欲から持続可能性、公平性、コミュニティ、再生へと変革する必要があります。そのためには、現場のコミュニティ、人種差別撤廃・気候正義の擁護者、若者、労働者、環境保護者、宗教団体など、多くのグループの協力が必要であり、また、貴殿をはじめとする意識の高い政府関係者が果たすべき重要な役割もあります。戦争と軍国主義を終わらせるために協力することは、この取り組みの中心となるべきものです。

私たちは、「気候変動と米国の軍国主義」に関するスライドの上映を予定させて頂きたく、一緒にどのように取り組んでいけるかについては、またご連絡させていただきたいと思います。気候変動特使としてのお時間とご配慮、そしてリーダーシップに感謝いたします。

ベテランズ・フォー・ピース「気候危機と軍国主義」作業グループ

<https://www.veteransforpeace.org/our-work/working-groups/climate-crisis>

この手紙をご支持頂ける方は、climate@veteransforpeace.org までご連絡ください。